

2023年3月期 決算説明資料

 KURABO

2023年5月18日



I 会社概要

II 2023年3月期 業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2024年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress '24」の方向性と進捗

I 会社概要

II 2023年3月期 業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2024年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress '24」の方向性と進捗

- **1888年創業** の、135年の歴史を有する **大手繊維メーカー**
- 化成品、環境メカトロニクス、食品・サービスなど **幅広い分野** に事業領域を展開
- 創業当時より、**環境保全** や **社会貢献** にも積極的に取り組んできた歴史
- 技術研究所を中心に **独自技術** を深耕し、「スマート衣料」や「ロボットビジョンシステム」など、新しい社会を見据えた **イノベーションの実現** にも取り組む
- 近年、急激な環境変化やコロナ禍の影響を受けるも、**成長・高収益領域** の拡大により、連結経常利益は **過去最高益を連続更新**



- 軟質ウレタン
- 機能樹脂製品
- 住宅用建材
- 不織布など



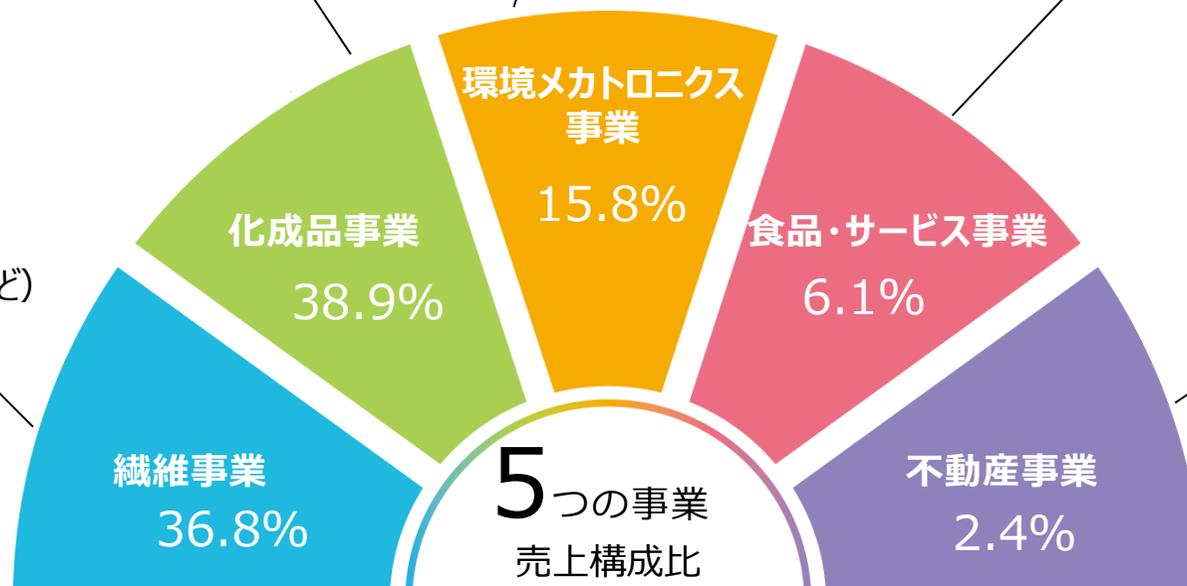
- エレクトロニクス
- エンジニアリング
- バイオメディカル
- 工作機械



- フリーズドライ食品
- ホテルなど



- 糸
- テキスタイル
- 繊維製品（縫製品など）



- 不動産開発

I 会社概要

II 2023年3月期 業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2024年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress '24」の方向性と進捗

- **当初及び修正（11/10公表）業績予想を上回る増収・増益を達成**
 - 売上高 153,522百万円 前期比 +16.1%増
(当初予想比 +5.9%増／修正予想比 +0.3%増)
 - 営業利益 8,676百万円 前期比 +15.2%増
(当初予想比 +23.9%増／修正予想比 +17.2%増)
 - 経常利益 10,024百万円 前期比 +14.1%増
(当初予想比 +31.9%増／修正予想比 +15.2%増)
- **連結経常利益は2期連続で過去最高益を更新**
- **カジュアル衣料の受注増や海外子会社の業績回復が牽引し、繊維セグメントは2018年3月期以来の営業黒字化**
- **半導体製造装置向け高機能樹脂加工品は、引き続き、高水準で推移し、営業利益は3期連続で過去最高を更新**

総じて好調に推移し、当初予想及び修正予想を上回る増収・増益を実現

(百万円)	22/3期 実績		23/3期 実績		前期比		23/3期 予想比			
		構成比		構成比		増減率	当初予想	達成率	修正予想 (11/10公表)	達成率
売上高	132,215		153,522		+21,307	+16.1%	+8,522	105.9%	+522	100.3%
売上原価	104,863	79.3%	124,077	80.8%	+19,213	+18.3%	-	-	-	-
販管費	19,823	15.0%	20,768	13.5%	+945	+4.8%	-	-	-	-
営業利益	7,528	5.7%	8,676	5.7%	+1,147	+15.2%	+1,676	123.9%	+1,276	117.2%
経常利益	8,783	6.6%	10,024	6.5%	+1,241	+14.1%	+2,424	131.9%	+1,324	115.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,602	4.2%	5,516	3.6%	△85	△1.5%	+216	104.1%	△484	91.9%
減価償却費	5,191	-	5,181	-	△10	△0.2%	5,500	-	5,500	-

需要の回復や好調な半導体市場等を追い風として、不動産事業を除くすべての事業が伸長し、当初予想及び修正予想を上回る増収となった。利益面では、原・燃料価格の高騰による影響を受けるものの、「繊維事業」の黒字転換をはじめ、増収による収益の押し上げにより大幅な営業（及び経常）増益を実現した。一方、特別損失の計上により最終損益は減益となった。

2023年3月期 業績の概要 (セグメント別)

	(百万円)	22/3期 実績		23/3期 実績		前期比		23/3期 予想比			
			利益率		利益率		増減率	当初予想		修正予想 (11/10公表)	
								達成率	達成率		
繊維事業	売上高	44,669		56,507		+11,837	+26.5%	+5,507	110.8%	+1,407	102.6%
	営業利益	△177	-	308	0.5%	+485	-	+308	-	△92	77.0%
化成品事業	売上高	51,695		59,726		+8,031	+15.5%	+2,726	104.8%	△274	99.5%
	営業利益	2,978	5.8%	3,712	6.2%	+734	+24.6%	+412	112.5%	+412	112.5%
環境メカトロ ニクス事業	売上高	23,593		24,271		+678	+2.9%	+271	101.1%	△729	97.1%
	営業利益	2,776	11.8%	2,834	11.7%	+58	+2.1%	+834	141.7%	+734	135.0%
食品・サービ ス事業	売上高	8,461		9,292		+831	+9.8%	△8	99.9%	+92	101.0%
	営業利益	271	3.2%	463	5.0%	+192	+71.0%	△37	92.6%	+63	115.8%
不動産事業	売上高	3,795		3,724		△71	△1.9%	+24	100.6%	+24	100.6%
	営業利益	2,746	72.4%	2,433	65.3%	△313	△11.4%	+133	105.8%	+133	105.8%

(単位：百万円)	22/3末	23/3末	増減	備考
流動資産	78,397	84,771	+6,374	売上債権や棚卸資産の増加
（現金及び預金）	(14,116)	(10,392)	(△3,723)	
固定資産	88,888	89,315	+426	
（有形・無形固定資産）	(51,064)	(48,624)	(△2,440)	
（投資その他の資産）	(37,823)	(40,690)	(+2,866)	
資産合計	167,285	174,086	+6,801	
流動負債	42,761	46,030	+3,268	
固定負債	27,109	25,149	△1,959	
負債合計	69,870	71,179	+1,308	借入金の増加
純資産	97,415	102,907	+5,492	
（株主資本）	(94,461)	(95,910)	(+1,448)	
負債・純資産合計	167,285	174,086	+6,801	
自己資本比率	57.4%	58.2%	+0.8 pp	
ROE（自己資本純利益率）	5.9%	5.6%	△0.3 pp	特損計上による一過性要因 自己資本の増加
ROA（総資産営業利益率）	4.5%	5.1%	+0.6 pp	
ROIC（投下資本利益率）	4.6%	5.3%	+0.7 pp	

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	22/3期	23/3期
営業キャッシュ・フロー	9,246	2,516
投資キャッシュ・フロー	△3,341	△2,969
財務キャッシュ・フロー	△14,065	△3,581
現金及び現金同等物増加額	△7,985	△3,713
現金及び現金同等物期末残高	14,073	10,360
有利子負債	13,196	15,413

設備投資 約46億円

配当支払 約20億円

- うち、22/3期期末配当 約14億円
- うち、23/3期中間配当 約6億円

自社株取得 約20億円

設備投資額	3,608	4,647
【事業別内訳】		
繊維事業	640	1,067
化成品事業	2,260	2,073
環境メカトロニクス事業	268	610
食品・サービス事業	275	781
不動産事業	157	129

(目的別) 設備投資額

- うち、成長・拡大投資 約18億円
- うち、環境投資 約7億円

I 会社概要

II 2023年3月期 業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2024年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress '24」の方向性と進捗

2022年度・業績の概要

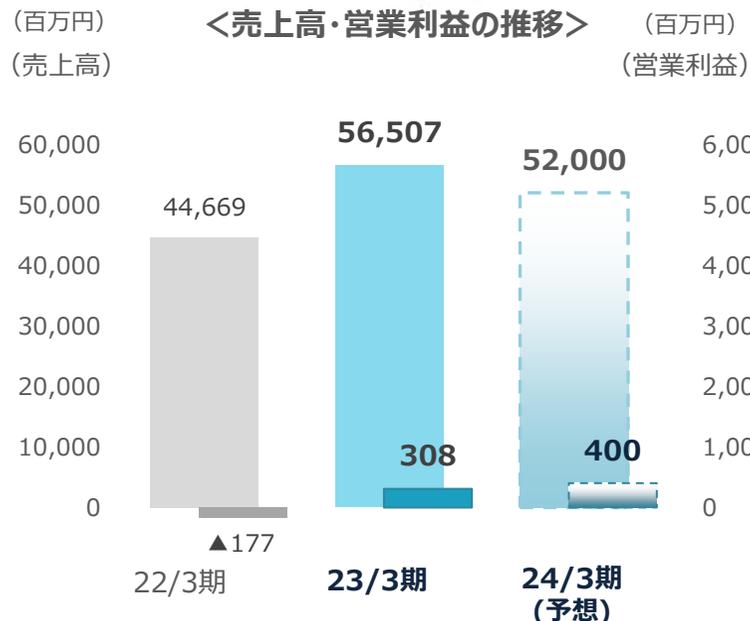
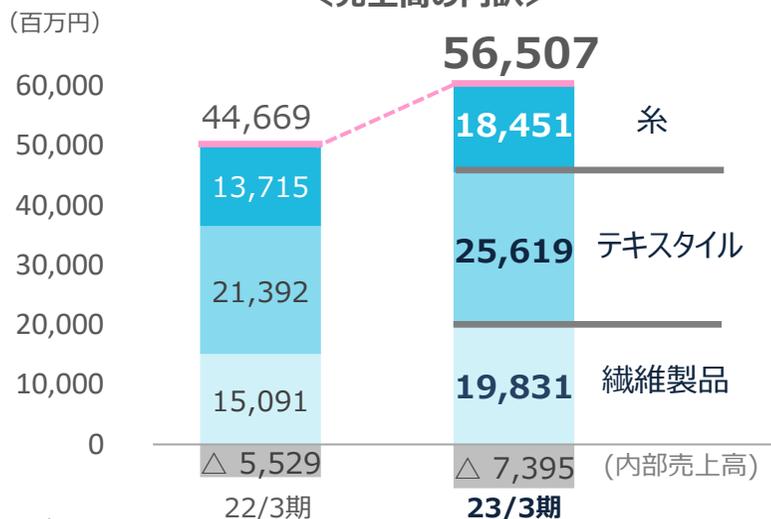
売上高は、「糸」「テキスタイル」「繊維製品（縫製品など）」がそれぞれ伸長し、大きく回復した。

利益面でも、原・燃料価格の高騰による影響はあったものの、価格転嫁や高付加価値製品の伸びにより、5期ぶりに営業黒字化を実現した。

財又はサービスの状況

糸	高付加価値製品や海外子会社が順調
テキスタイル	カジュアル向け素材が海外子会社を中心に回復 ユニフォーム向け素材も順調に推移
繊維製品	国内カジュアル衣料の受注が増加

<売上高の内訳>



今後の業績見通し（2024/3期 業績予想）

売上高 520億円 **営業利益 4億円**

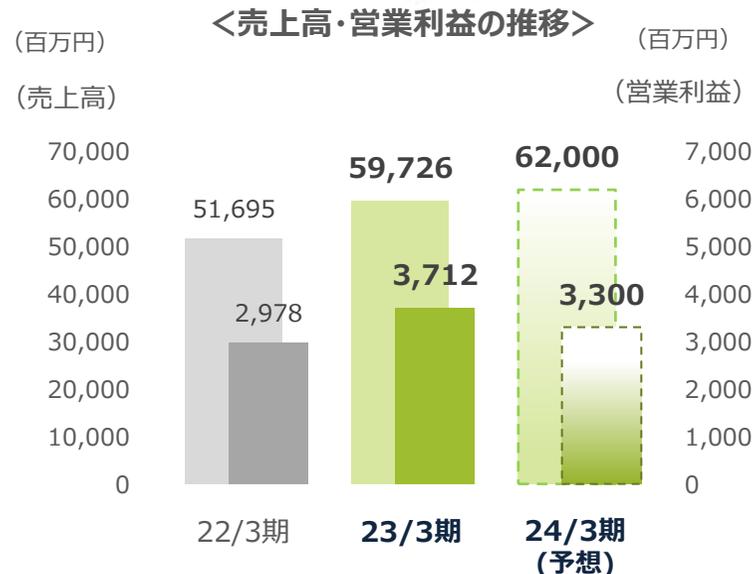
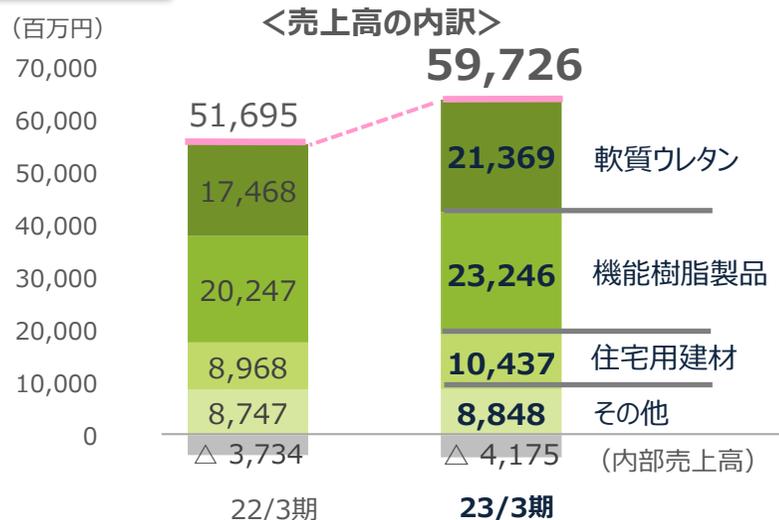
コロナ禍からの回復受注の一服を受け、海外子会社を中心に減収となるが、利益面では、原料改質技術を活用した高機能製品「NaTech（ネイテック）」など独自技術を生かした新商品・サービスの拡販により、営業増益を見込む。

2022年度・業績の概要

半導体市場の好況により、半導体製造装置向け「機能樹脂製品」が収益拡大に大きく寄与。「軟質ウレタン」も半導体不足や中国のゼロコロナ政策によるサプライチェーンの混乱の影響を受けたが回復傾向となり、増収。利益面では、比較的採算性の高い「機能樹脂製品」の貢献に加えて、「軟質ウレタン」や「住宅用建材」の損益改善により増益。

財又はサービスの状況

軟質ウレタン	自動車向けは回復傾向、ブラジル子会社の受注が順調
機能樹脂製品	半導体製造装置向けが好調、機能フィルムは自動車向けを中心に回復傾向
住宅用建材	景観材及び断熱材が順調
その他	機能資材は補強用繊維資材の受注が回復



今後の業績見通し（2024/3期 業績予想）

売上高 620億円 **営業利益 33億円**

- 自動車向けは、2023年度後半から本格的な回復を見込む。
- 高収益の半導体製造装置向けは、半導体市場が調整局面に入り、前期比では低調に推移する見込み。機能フィルムは、新ラインの立ち上げに注力。
- 住宅用建材は、新商品のプレキャスト段板の拡販に注力。

2022年度・業績の概要

売上高は、好況な半導体市場を背景に、「エレクトロニクス」の半導体製造関連向けが順調に推移し増収。

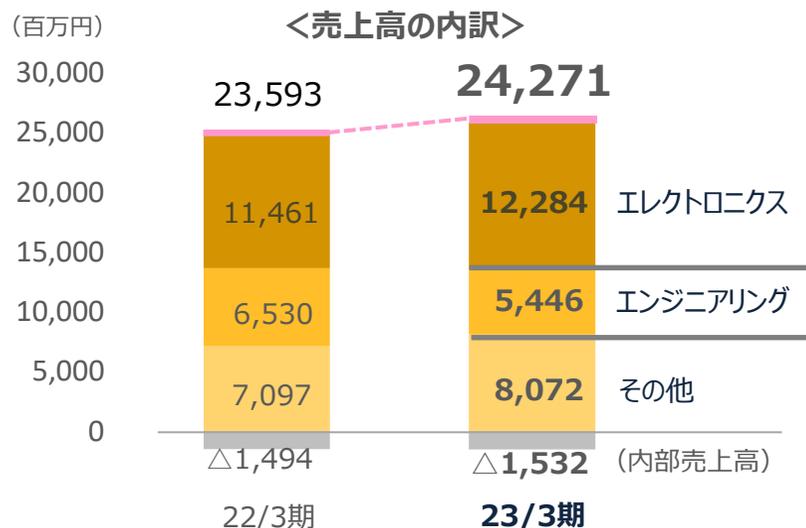
利益面でも、「その他」の工作機械で国内、米国向けが順調に推移し増益。

財又はサービスの状況

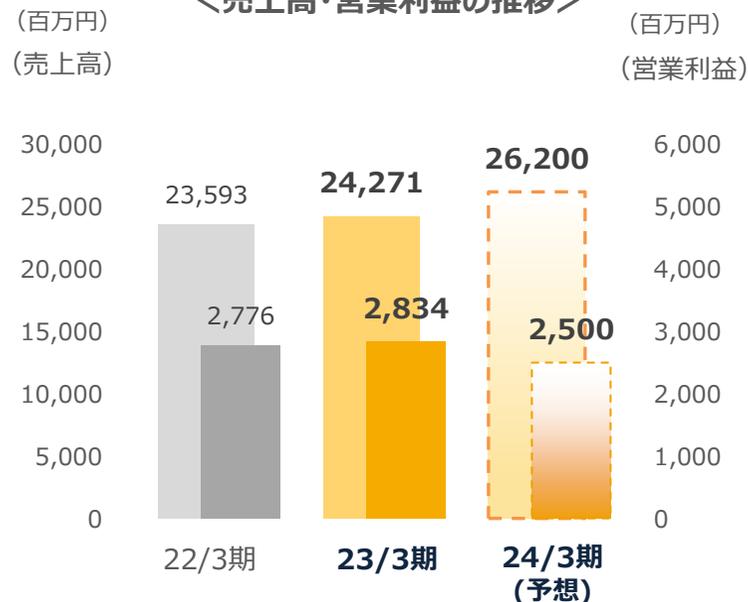
エレクトロニクス 半導体製造装置向け液体成分濃度計が順調、半導体洗浄装置の大型案件もあり、半導体製造関連事業が牽引

エンジニアリング 排ガス処理設備及びプラント関係の大型案件が減少

その他 バイオメディカルは、攪拌脱泡装置の海外向け販売が堅調に推移。工作機械は、国内、米国向けが順調、中国向けが低迷



＜売上高・営業利益の推移＞



今後の業績見通し（2024/3期 業績予想）

売上高 262億円 営業利益 25億円

- エレクトロニクスは、半導体市場が調整局面に入り、主力の半導体製造関連向けが前期比では低調に推移する見込み。
新技術であるロボットビジョンの商品開発力強化に注力。
- エンジニアリングは、関係会社が医薬品業界向けを中心に堅調に推移する見通し。

2022年度・業績の概要

売上高は、「食品」及び「サービス」のホテル関連が伸長した。

利益面でも、「ホテル関連」のコロナ禍からの回復（稼働率及び客室単価の改善）が増益に大きく寄与した。

財又はサービスの状況

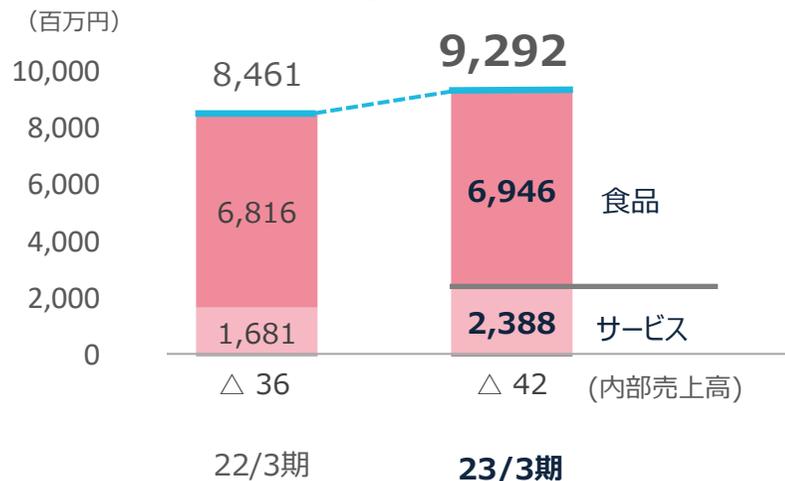
食品

内食需要の定着により、成型スープの販売が好調

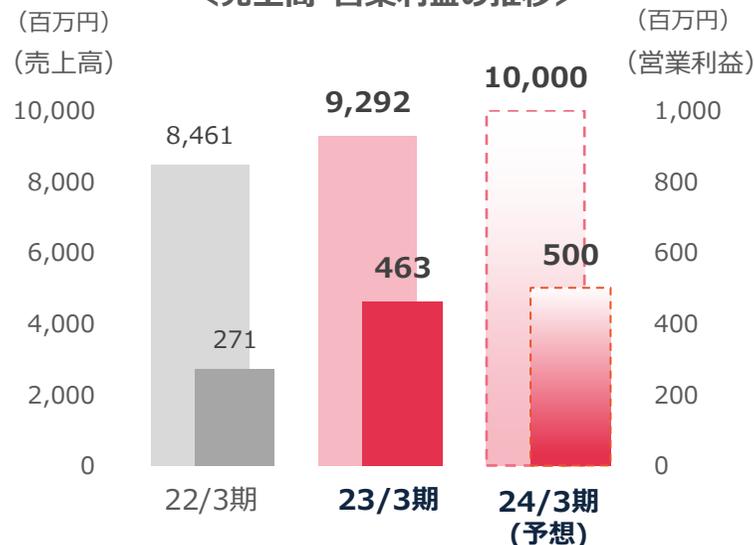
サービス

ホテル関連は行動制限緩和や観光事業支援策の効果により増収

<売上高の内訳>



<売上高・営業利益の推移>



今後の業績見通し（2024/3期 業績予想）

売上高

100億円

営業利益

5億円

- 「食品」は、消費者の低価格志向に対応すべく、安価で高機能な商品の開発・提案にも注力。
- 「ホテル関連」は、感染対策の継続により安心・安全をPRしつつ、旅行・宴会需要の回復を捉えた、魅力的な商品・サービスの開発・提供などによる集客力の強化を図る。
なお、2023年4月に倉敷アイビースクエアでG7倉敷労働雇用大臣会合が開催された。

2022年度・業績の概要

一部賃貸条件の変更などにより減収・減益となるものの想定範囲内。

事業例（一部）



大型ショッピングモールを中心とする土地の再開発事業に関わり地域の活性化に貢献

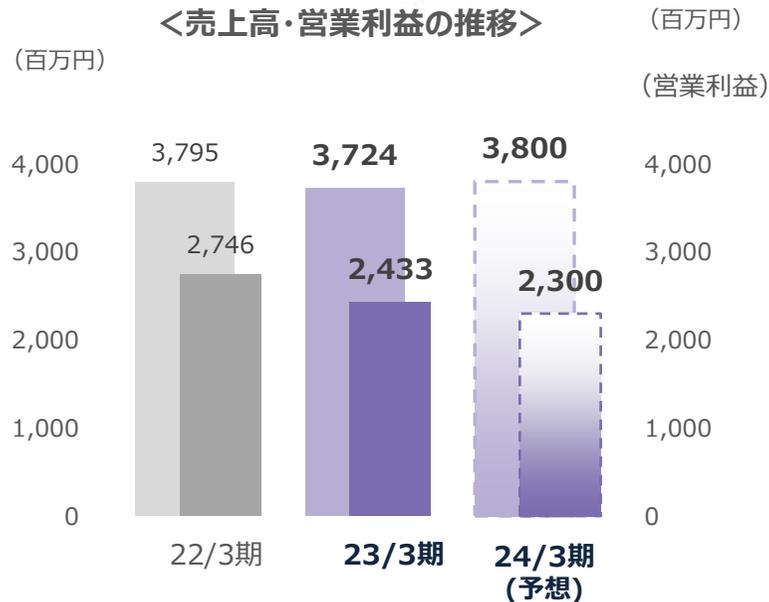


資産の有効活用を目的にテナントビルとして運用している「クラボウアネックスビル」



エネルギー問題の解決に大きな期待がかかるメガソーラー施設へ用地を提供

＜売上高・営業利益の推移＞



今後の業績見通し（2024/3期 業績予想）

売上高

38億円

営業利益

23億円

建物賃貸物件の修繕費増加や経費増加などにより減益。

社会課題に対する取組み（繊維事業）



繊維製品の大量廃棄問題

服を作る時の“もったいない”事実

服を作る時にどうしても“裁断くず”の発生率は約15%＊。
つまり、服を7着作ると1着分に相当する“裁断くず”が出る計算になります。



7着作る



1着分の“裁断くず”が出る

クラボウが生み出す“もったいいい”

この“もったいない”事実に対して、クラボウは今まで培ってきた
開織・反毛技術をベースに、“もったいいい”へとアップサイクル。



ループラスとは生産工程で発生する裁断くずを回収し、
反毛してワタに戻し、繊維製品の原料として再利用する
プロジェクト

クラボウの
技術とアイデアで



開織・反毛

生み出す

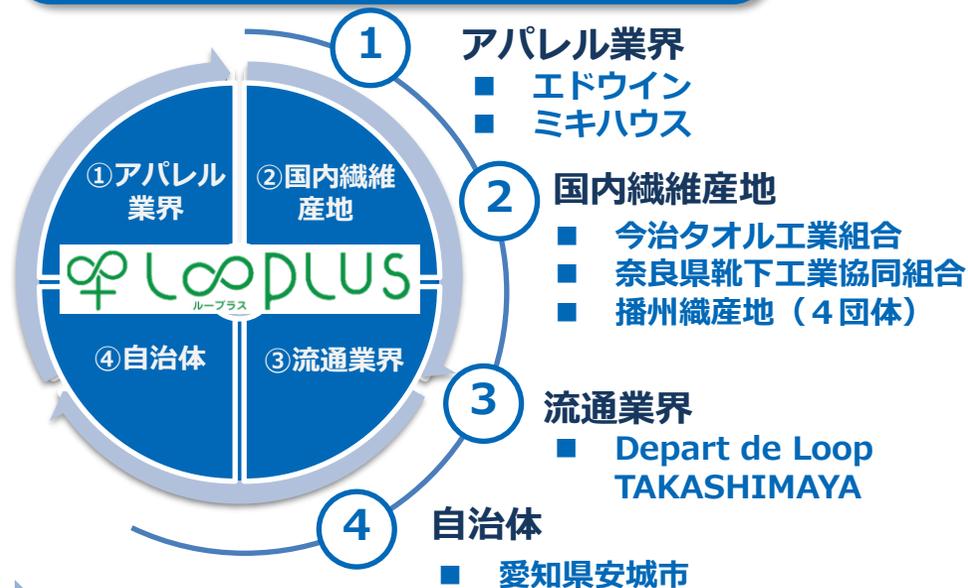


“もったいいい”
様々な価値のある製品



繊維製品

「L∞PLUS」の取組み拡大



消費者を巻き込んだ社会循環型の取組みへ発展

ジャパンサステナブルファッションアライアンス（JSFA）

- 2021年設立
- 会員数 57社（2023年4月時点）
- 当社は、技術開発のための環境整備委員会「反毛ワーキンググループ」のリーダー
- 「L∞PLUS」を活用し、ファッションロスゼロに貢献する取組みを推進



JAPAN
SUSTAINABLE
FASHION
ALLIANCE

半導体洗浄装置等の製造・販売のグループ会社「エコー技研（株）」が生産能力を拡大するための拡張工事を本年2月に完了しました。

クリーンルームの拡張、装置に使用する外付けユニットや搬送ロボットの組み立て室の新設などにより生産能力を約60%高め、4月から本格稼働を開始しました。

(会社名) エコー技研株式会社

- クラボウ100%子会社
- 本 社：東京都青梅市
- 事業内容：半導体洗浄装置等の製造、販売



<シリコンウエハ洗浄装置内部>



<クリーンルーム内>

I 会社概要

II 2023年3月期 業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2024年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress '24」の方向性と進捗

市場動向は調整局面を迎え、業績は踊り場となるも、後半から回復に向かう見通し
 今後を見据えた成長・拡大投資、ならびに環境投資を加速する計画

(百万円)	23/3期 通期 実績		24/3期 業績予想				前期比 (通期比較)	
		構成比	第2四半期 (累計)		通期			増減率
				構成比		構成比		
売上高	153,522		68,500		154,000		+478	+0.3%
営業利益	8,676	5.7%	1,900	2.8%	7,900	5.1%	△776	△8.9%
経常利益	10,024	6.5%	2,300	3.4%	8,500	5.5%	△1,524	△15.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,516	3.6%	1,400	2.0%	5,800	3.8%	+284	+5.1%
設備投資額	4,647	-	-	-	7,400	-	+2,753	+59.2%
減価償却費	5,181	-	-	-	5,400	-	+219	+4.2%

2024年3月期 通期業績予想：セグメント別

	(百万円)	23/3期 実績		24/3期 予想		前期比	
			利益率		利益率		増減率
繊維事業	売上高	56,507		52,000		△4,507	△8.0%
	営業利益	308	0.5%	400	0.8%	+92	+29.9%
化成品事業	売上高	59,726		62,000		+2,274	+3.8%
	営業利益	3,712	6.2%	3,300	5.3%	△412	△11.1%
環境メカトロニクス事業	売上高	24,271		26,200		+1,929	+7.9%
	営業利益	2,834	11.7%	2,500	9.5%	△334	△11.8%
食品・サービス事業	売上高	9,292		10,000		+708	+7.6%
	営業利益	463	5.0%	500	5.0%	+37	+8.0%
不動産事業	売上高	3,724		3,800		+76	+2.0%
	営業利益	2,433	65.3%	2,300	60.5%	△133	△5.5%

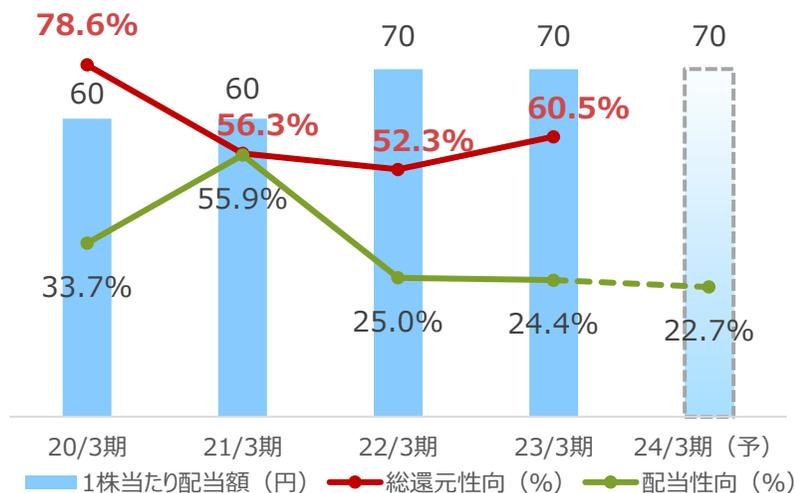
株主還元方針

安定的かつ継続的な利益還元を基本とするが、その他株主還元策として自己株式の取得も併せて検討し、本中計期間における総還元性向は50%以上を目標とする。

実績（および予想）

2023年3月期の年間配当は、前期と同額の1株当たり **70円（中間35円、期末35円）** を実施
 自己株式の取得（約20億円）を含めた、総還元性向では **60.5%** を確保
 2024年3月期の年間配当についても1株当たり **70円（中間35円、期末35円）** を予想

配当及び総還元性向の推移



自己株式の取得実績

期間： 2022/5/13～2022/12/31
 自己株式の取得： 約97万株
 （取得価額の総額： 約20億円）
 自己株式の消却： 約75万株

I 会社概要

II 2023年3月期 業績の概要

III セグメント別の業績及び今後の見通し

IV 2024年3月期 通期業績予想

V 中期経営計画「Progress '24」の方向性と進捗

長期ビジョン 2030

目指すべき姿：イノベーションと高収益を生み出す強い企業グループ

「Creation '21」
イノベーションによる収益
拡大と企業価値の向上

「Progress '24」
高収益事業の拡大と持続可能な
成長に向けた基盤事業の強化

【長期ビジョン2030】
イノベーションと高収益を
生み出す事業体制への変革

2019.4 前中期経営計画

2022.4 中期経営計画

2025.3

2031.3

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
より良い未来社会の実現

成長・注力事業

成長市場における注力
事業への経営資源の集中

高収益

持続的
成長

基盤事業

収益力の強化

ESG経営の推進

「長期ビジョン2030」の実現

イノベーションと高収益を
生み出す事業体制への変革

最適な事業ポートフォリオの
構築

サステナビリティの実現

ESG経営の推進

前中計からの課題

- 繊維独自技術商品の拡販未達
- 海外事業の拡大未達
- ロボットビジョンやスマートフィットの事業化遅延
- 繊維事業の早期黒字化

収益力の向上

環境変化への対応

- 原・燃料価格高騰、サプライチェーンの混乱
- アフターコロナを見据えた動き
- DXを含むイノベーションの進展
- 新素材・新機能に対する需要増
- SDGsや気候変動対応への意識の高まり

【基本方針】

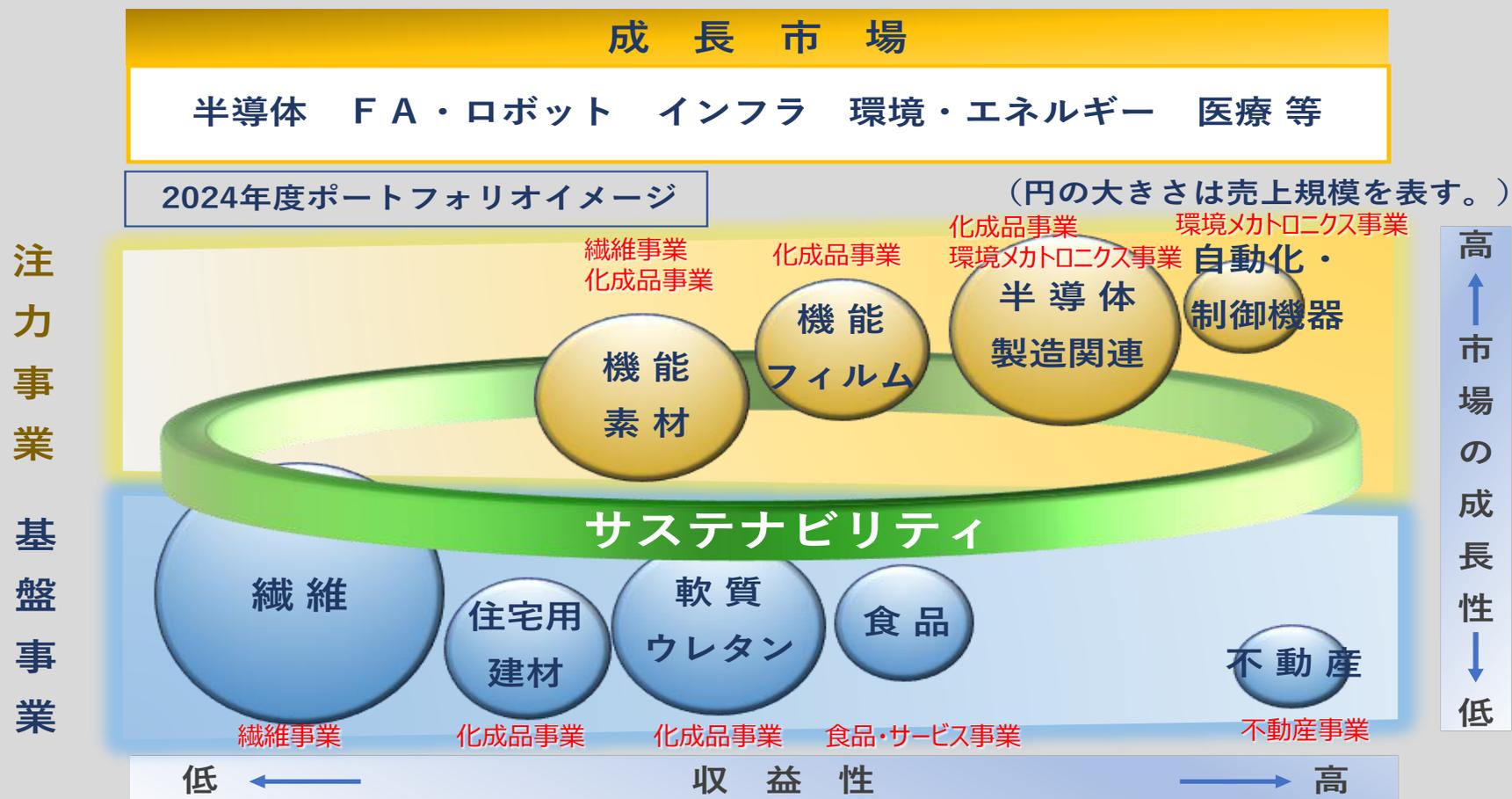
高収益事業の拡大と持続可能な成長に向けた基盤事業の強化

【重点施策】

- ① 成長・注力事業の業容拡大と基盤事業の収益力強化
- ② R & D活動の強化による新規事業創出と早期収益化
- ③ SDGs達成への貢献
- ④ 多様な人材の活躍推進

基本方針

成長市場における当社グループの注力事業に**経営資源を集中**し、業容拡大を図るとともに、**基盤事業の収益力強化**に注力する



【全社目標】	(億円)	(基準年度)	(初年度)
		22/3期実績	23/3期実績
売上高		1,322	1,535
営業利益		75	86
経常利益		87	100
親会社株主に帰属する当期純利益		56	55
売上高営業利益率		5.7%	5.7%
ROE (自己資本純利益率)		5.9%	5.6%
ROA (総資産営業利益率)		4.5%	5.1%
ROIC (投下資本利益率)		4.6%	5.3%

(最終年度)		
25/3期目標	増減 (22/3期比)	CAGR
1,600	+277	6.6%
96	+20	8.4%
102	+14	5.1%
72	+15	8.7%
6.0%	+0.3 pp	
7.0%	+1.1 pp	
5.3%	+0.8 pp	
5.6%	+1.0 pp	

※CAGR=Compound annual growth rateの略。
年平均成長率のこと (以下、同様)

【事業別目標】	(億円)	22/3期実績	23/3期実績
		22/3期実績	23/3期実績
繊維事業	売上高	446	565
	営業利益	△1	3
化成品事業	売上高	516	597
	営業利益	29	37
環境メカトロニクス事業	売上高	235	242
	営業利益	27	28
食品・サービス事業	売上高	84	92
	営業利益	2	4
不動産事業	売上高	37	37
	営業利益	27	24

25/3期目標	増減 (22/3期比)	CAGR
540	+93	6.5%
8	+9	黒字化
630	+113	6.8%
39	+9	9.4%
290	+54	7.1%
30	+2	2.6%
103	+18	6.8%
7	+4	37.2%
37	△0	—
23	△4	—

重点施策 ① 独自技術を活用した高機能素材やサステナブル素材の販売拡大 ○

- 原料改質技術を活用した高機能コットン素材「NaTech(ネイテック)」は、インナー向けに拡販が進む中、新たな機能を付与した商品開発が今後の課題



- アップサイクルシステム「L∞PLUS(ループラス)」は、様々な分野の企業や主要繊維産地、自治体と連携強化、販売開始。商圈拡大に努める



- 防災加工「PROBAN(プロバン)」のライセンス契約締結により、防災素材のラインアップが充実



重点施策 ② サプライチェーン全体を意識したQR対応と生産性向上 △

- 国内外工場の生産動向の把握、工場間の生産調整による、納期対応と生産の平準化 および縫製基地に近い生産拠点でのQR対応が今後の課題

重点施策 ① 半導体やエネルギー関連市場における注力事業への経営資源集中



- 生産・開発体制増強に向け、熊本事業所の新棟建設用地を取得。2024年度後半の竣工を目指す



<現 熊本事業所 外観>

- 機能フィルムは、スマホ・文具・包材市場の低迷により拡販進まず
- エネルギー関連市場向け機能フィルム製造ラインは、2023年度前半に量産開始予定



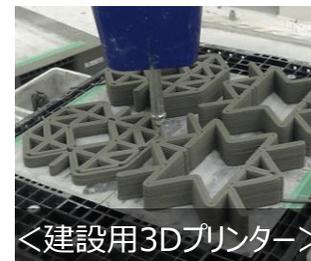
<エラストマーフィルム>

重点施策 ② 軟質ウレタンや住宅用建材など基盤事業の販売・生産体制の効率化と新規ビジネスの拡大



- 軟質ウレタンは車両分野で販売が回復、生産拠点の移管、統合など収益性改善を図る
- 住宅用建材も回復傾向、スマートファクトリー化推進し、生産性改善を図る
- 引き続き、原・燃料価格高騰分の価格転嫁に注力

- 建設用3Dプリンターは、造形材から開発中で、東京大学とも共同研究を推進
- プレキャスト事業は、八千代PCセンター設立、生産開始



<建設用3Dプリンター>

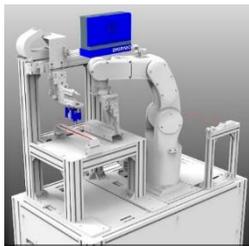
重点施策 ① 商品力強化による競争優位性の獲得と海外市場への拡販



- ロボット用高速3Dビジョンセンサー「クラセンス」がロボット大賞を受賞
- ワイヤーハーネス製造ロボットパッケージの拡販に注力



高速3Dビジョンセンサー
クラセンス (KURASENSE)



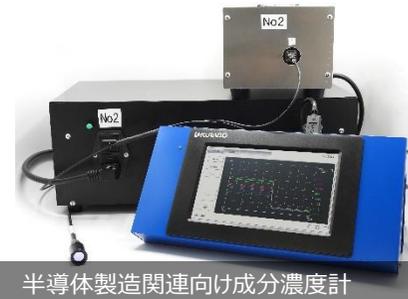
ワイヤーハーネス製造
ロボットパッケージ

- 路面検査装置は海外展開が遅れており、成長著しいアジアをターゲットに絞り拡販に取り組む
- 海外向け攪拌脱泡装置が伸長



路面検査装置

- 高温りん酸循環装置など、半導体製造関連向けが伸長
- インサイチュ計測技術を開発、試作機をユーザー評価中



半導体製造関連向け成分濃度計

重点施策 ② 社会課題の解決に貢献する商品群の市場投入



- 飼料高騰等による酪農家の経営環境悪化により「FUNTO」の販売が伸び悩み
- 排水処理設備は好調

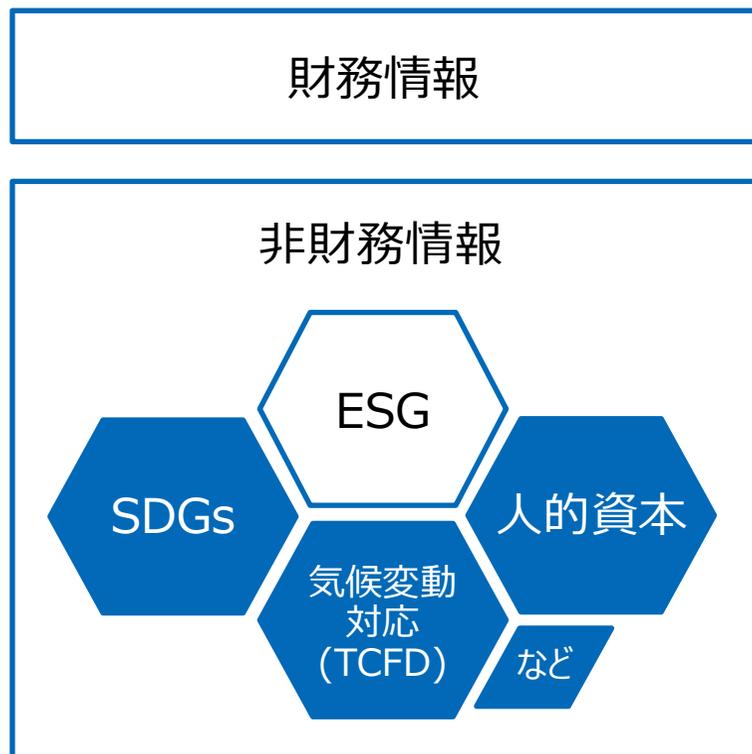


FUNTO

「FUNTO」なら、家畜排せつ物をサラサラでクリーンな堆肥に繰り返し再生。
「FUNTO」のご紹介：<https://www.kurabo.co.jp/eng/lp/shikiryo/>

企業価値向上に向けて「統合報告書」を制作（2023年秋に開示予定）

財務情報のほか、非財務情報（ESG：SDGs、環境対策や人的資本などに関する取組み）の充実により、**中長期的な価値創造ストーリー**を効果的に伝えることが目的



これまでの施策を体系立てて説明

■ 6月
有価証券報告書にてサステナビリティへの取組みについて公開

■ 11月
統合報告書発行予定

当社の**価値創造ストーリーの理解促進**を図るとともに、コミュニケーションツールとして株主・投資家をはじめとする、ステークホルダーとの**建設的な対話**に活用していく方針

クラボウグループの長期環境目標

クラボウグループは、政府目標である2030年度にCO₂排出量を46%削減（2013年度比）、2050年度にカーボンニュートラルの達成に向けて、CO₂排出量削減のための推進体制を強化し、具体的な施策を進めてまいります。



取組み

脱炭素社会・資源循環型社会に向けた取組み

●カーボンニュートラルロードマップに基づくCO₂排出量の削減

- ✓ 太陽光パネルの設置（クラボウ徳島工場・三重工場、タイクラボウ） 合計 2,200t-CO₂削減
- ✓ ボイラーのガス化、冷凍機更新（クラボウ裾野工場・鴨方工場、日本ジフィー食品） 合計1,100t-CO₂削減
- ✓ 再生可能エネルギー由来の電力導入（クラボウ本社ビル） 合計400t-CO₂削減

●資源の有効活用と再資源化の推進

- ✓ 廃棄物ゼロエミッションの推進（再資源化率） 2022年度目標 96%（前年度実績 94.7%）

<h2>ガバナンス</h2>	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動を含む環境課題を、社会課題の解決と企業の持続的な発展のための重要課題と捉え、取締役社長が委員長を務めるクラボウCSR委員会の統括のもと、技術系執行役員が委員長を務める環境委員会を中心に取組みを推進している 取締役会は、その取組みの目標や計画の内容、各施策の進捗状況を審議の上、監督を行っている
<h2>戦略</h2>	<ul style="list-style-type: none"> 長期環境目標の達成に向け、2022年に移行計画「カーボンニュートラルロードマップ」を定め、2050年カーボンニュートラル達成に向けた活動を進めている 2030年における気候変動が事業に及ぼす影響を網羅的に把握するために、リスクと機会に対して「1.5℃シナリオ」と「4℃シナリオ」に基づきシナリオ分析を実施し、当社グループに及ぼす影響度を評価した（「リスクと機会の一覧表」については、2023年6月に開示予定の有価証券報告書を参照） 今後、シナリオ分析で評価結果を踏まえ、特に影響の大きいリスクの軽減ないし機会の獲得に向けた対応策の取組みを推進する
<h2>リスク管理</h2>	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動関連のリスクに関しては、以下の評価・管理プロセスに則り、環境委員会の主導のもと適切な管理を行っている <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR A[リスクの洗い出し] --> B[リスクの分析・評価] B --> C[対応策の検討] C --> D[戦略への組み込み・実行] D --> E[モニタリング] </pre> </div>
<h2>指標と目標</h2>	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量削減の長期環境目標として、2050年までにカーボンニュートラルを達成することを目指す 特に、2030年までの期間については、CO₂の自社排出量（Scope1,Scope2）の絶対量ベースで、政府目標である2013年度比46%削減を達成するためのロードマップを策定しグループ全体で取り組む CO₂サプライチェーン排出量（Scope3）に関しても、算定基準を進めており、算定出来次第、CO₂排出量削減目標（Scope3）の策定も検討する

目指す姿：

「イノベーションと高収益を生み出す強い企業グループ」



社員一人ひとりが組織に主体的に貢献する
「エンゲージメントの高い組織の構築」に取り組む



① 活力ある
組織風土の
醸成

② 柔軟な
働き方の
推進

③ 多様な
人材の確保
と育成

① 活力ある組織風土の醸成

女性活躍やアンコンシャスバイアス・LGBTQ+の理解による**D&Iの推進**、働く意義であるパーパスを考え上司と部下が共有することで社員の能力を引き出す**エンパワーメント**の推進、エンゲージメント向上のための1on1ミーティングの実施

【主な指標】

管理職に占める女性割合、新卒総合職に占める女性割合、経験者総合職採用に占める女性割合、総合職女性の配属課比率、障がい者雇用率、エンゲージメントスコアなど

② 柔軟な働き方の推進

働きやすい職場づくりを推進するためのフレックスタイム制度・テレワーク制度の定着、男性育児休業取得率の向上、オフィスカジュアルの定着、有給休暇の取得促進、安全衛生や健康経営の推進

【主な指標】

男性の育児休業取得率、有給休暇取得日数、業務上災害発生件数など

③ 多様な人材の確保と育成

成長市場における注力事業への人的資源配分と、経験者採用力強化のためのエージェント活用や通年・リファラル採用、社員教育定着のための教育内容の上司へのフィードバック、スマートファクトリー化・事業変革のためのIoT推進・DX活用教育の実施

【主な指標】

総合職採用に占める経験者の割合、1人当たり社員教育関係費用など

将来情報に関するご注意

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、将来の業績を確約するものではありません。実際の業績等は、内外主要市場の経済環境、為替相場の変動など様々な要因により、大きく変動する可能性があります。

また、本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。本資料への当社に関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

Appendix

SDGsへの取組み

【基本方針】

持続的な社会の実現に貢献するためには、企業自らが持続的な企業価値の向上を目指さなければならないと考えており、付加価値の高い技術や商品・サービスを創出し、高収益事業を育成・拡大するとともに、当社グループの経営理念である

「私たちクラボウグループは、新しい価値の創造を通じてより良い未来社会づくりに貢献します。」のもと、以下の実践に努める。

- 
- ① 事業を通じた社会課題解決への貢献
 - ② 地球環境の保全を意識した事業活動の推進
 - ③ 人権の尊重および、働きやすさとやりがいのある職場環境の整備
 - ④ 信頼される企業づくりの推進

事業と関わりの深いSDGs

関連するSDGs	関連する事業活動
繊維事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 改質技術による機能性天然繊維の開発・提供 ● 服の裁断くず再資源化による循環型ビジネス構築 ● 再生ポリエステルや生分解性繊維の活用 ● 熱中症対策、感染症対策のサポート
化成品事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅のエネルギー効率改善 ● 再生樹脂の利用促進 ● 間伐材の利用促進 ● 廃材のリサイクル活用
環境メカトロニクス事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路、鉄道等の交通インフラの長期保全 ● 再生可能エネルギーの利用促進 ● 間伐材等廃棄物の利用促進 ● 核酸分離装置によるゲノム医療研究支援 ● 和牛の血統管理による生産効率向上 ● 家畜排せつ物のクリーンな堆肥への繰り返し再生
食品・サービス事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全で栄養価の高い食品の提供 ● 災害備蓄対策
全社共通・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ● 柔軟な働き方の実現 ● 社会貢献できる技術基盤の構築 ● 不動産賃貸を通じた住みやすい街づくり ● ゼロエミッションの推進

最も重視するテーマ



+

多様な人材の活躍推進等

繊維事業

- 改質技術による機能性天然繊維の開発・提供
- 服の裁断くず再資源化による循環型ビジネス構築
- 再生ポリエステルや生分解性繊維の活用
- 熱中症対策、感染症対策のサポート

■ 取組み事例

NaTech

天然繊維に機能性を持たせることができる独自技術素材。暖かさ、消臭、吸放湿などの機能を付与でき、洗濯耐久性に優れます。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



15 陸の豊かさも守ろう



LoopPlus

ループプラス

服の裁断くずや不要な製品から再資源化する独自のアップサイクル技術を活用した循環型ビジネスの構築を目指しています。



12 つくる責任 つかう責任



17 パートナーシップで目標を達成しよう



AIR FLAKE

SUSTAINABLE INSULATION

100%リサイクル原料で実現した、天然羽毛レベルの軽さ、保温性、やわらかさ、乾きやすさが特長の中わた素材です。



12 つくる責任 つかう責任



15 陸の豊かさも守ろう



化成品事業

- 住宅のエネルギー効率改善
- 再生樹脂の利用促進
- 間伐材の利用促進
- 廃材のリサイクル活用

■ 取組み事例

クラティスエコ KURATTICE ECO

アルミなどの芯材に木粉入り樹脂をコーティングした合成木材。天然木調などの意匠性と金属の強度を併せ持つ建材・産業資材です。



12 つくる責任
つかう責任



15 陸の豊かさも
守ろう



クランゼロ®シリーズ

ノンフロンで断熱性に優れた新しい発泡剤を使用した高性能硬質ウレタンフォーム断熱材で、優れた気密性と断熱性で快適な住環境を実現します。



11 住み続けられる
まちづくりを



13 気候変動に
具体的な対策を



クランシール®シリーズ

ゴムのような弾性とプラスチックの優れた加工性を併せもつエラストマー素材のフィルムです。太陽電池や建材ガラスの中間膜などの用途で、環境や安全・快適に貢献します。



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



11 住み続けられる
まちづくりを



環境 メカトロニクス 事業

- 道路、鉄道等の交通インフラの長期保全
- 再生可能エネルギーの利用促進
- 間伐材等廃棄物の利用促進
- 核酸分離装置によるゲノム医療研究支援
- 和牛の血統管理による生産効率向上
- 家畜排せつ物のクリーンな堆肥への繰り返し再生

■ 取組み事例

路面検査コンパクトユニット PG-4

3Dカメラ、距離計、GPSを搭載し、時速100kmで走行しながら短時間で路面の損傷を計測することでインフラ劣化診断の効率化が図れます。



強力な殺菌・乾燥能力を有し、家畜の糞尿を含む使用済み敷料を、サラサラでクリーンな堆肥に繰り返し再生します。



バイオマス発電事業

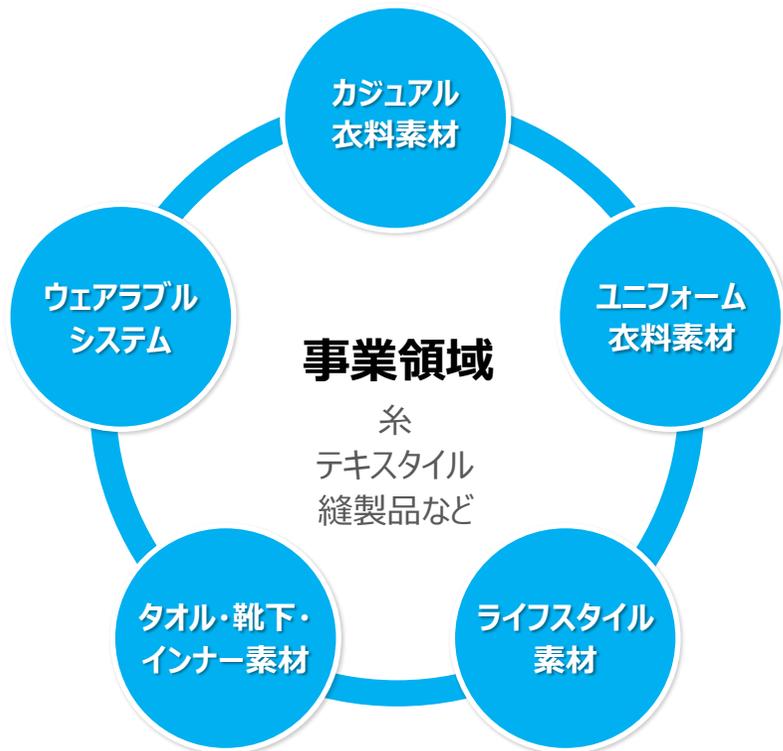
間伐材などを燃料としたバイオマス発電事業を展開しており、一般家庭約11,000世帯分の年間使用電力量相当の発電を行っています。



事業紹介

繊維事業

紡績、織布、染色・加工、縫製における独自技術を活かし、糸では、原料改質技術を活用した高機能製品「NaTech（ネイテック）」の拡販等に注力。テキスタイルおよび縫製品などの繊維製品では、ユニフォーム分野においては、働く人へ安全と快適を提供するビジネスへの転換を進め、カジュアル分野においては、アップサイクルシステム「L∞PLUS（ループラス）」やサステナブル原料を活用した商品を展開しています。これらの取組みにより、サステナブル社会の実現に貢献していきます。

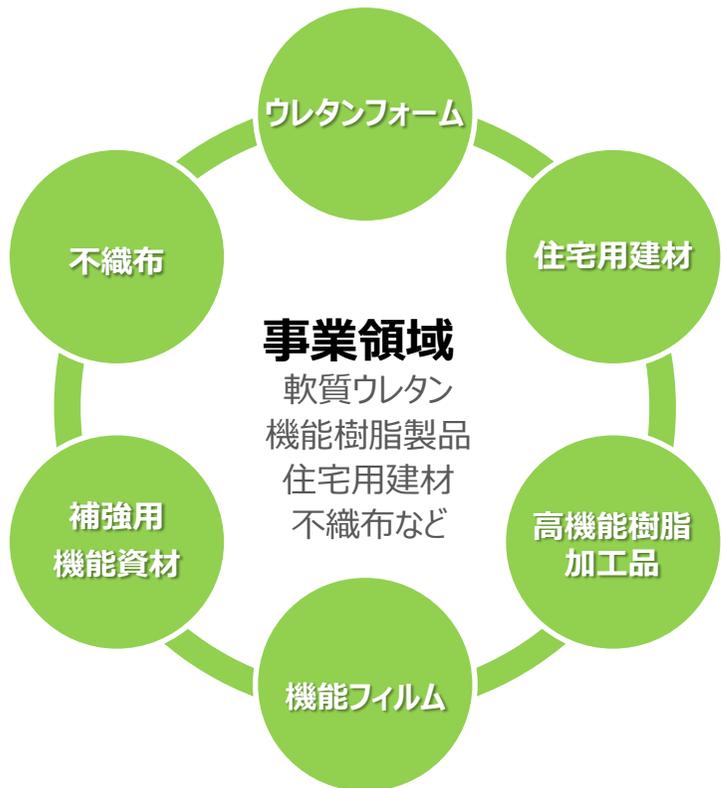


主な製品・技術

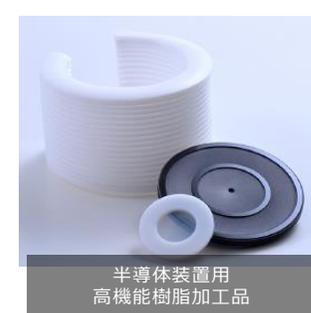


化成品事業

独自の原料配合と成形技術により、自動車内装材や住宅用建材・断熱材分野で差別化を強化し、半導体製造関連では高度な加工技術により高機能樹脂加工品を拡大。
また、機能フィルムを自動車分野やエネルギー市場で展開するなど、独自技術により様々な市場において多彩な製品を提供しています。

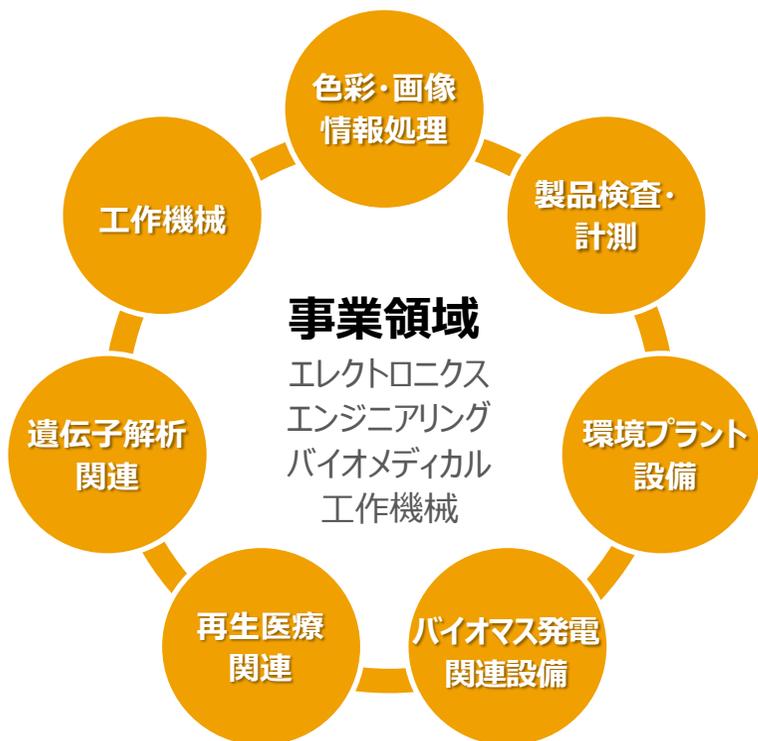


主な製品・技術

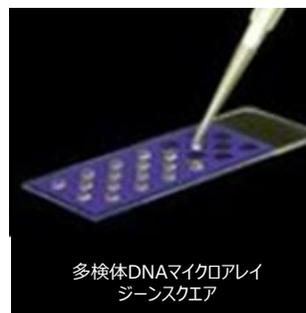


環境 メカトロニクス 事業

色のセンシング技術を軸に検査・計測機器でモノづくりの品質向上に貢献するエレクトロニクス事業。排水・排ガス処理技術などの環境プラント技術を基盤にバイオマス発電分野にも進出するエンジニアリング事業。創薬、化粧品開発、前臨床研究の領域で研究試薬や機器、サービスを提供するバイオメディカル事業。モノづくりのための機械をつくる工作機械事業。モノづくり、研究活動、エネルギー活用分野で、暮らしの安全・安心・快適を支えています。

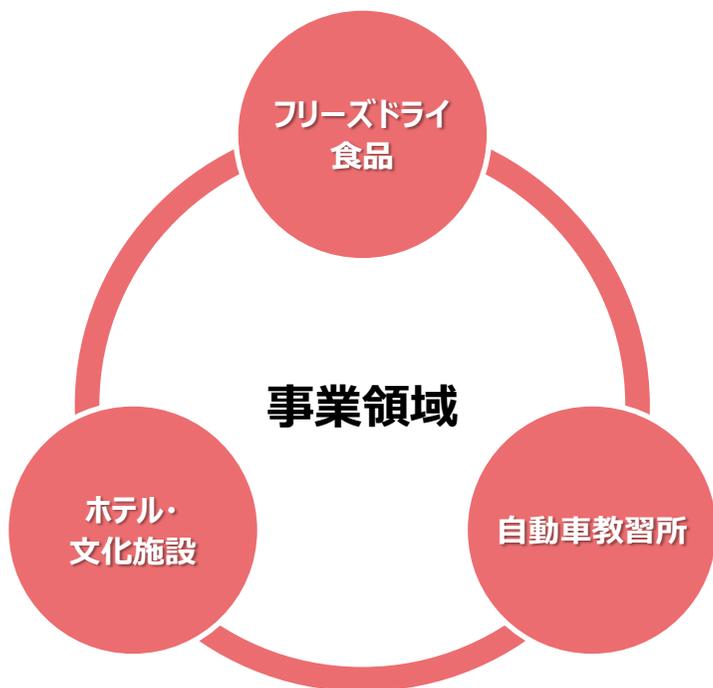


主な製品・技術



食品・サービス事業

食品分野では「日本ジフィー食品」が成型スープなどのフリーズドライ食品を提供。サービス分野ではクラボウ設立当時の工場を活用した複合文化施設である「倉敷アイビースクエア」においてホテルを運営。また、「クラボウドライビングスクール」は地域の“安全”に貢献しています。



日本ジフィー食品

1960年設立の「日本ジフィー食品」はクラボウグループの食品事業を担っています。



倉敷アイビースクエア

赤煉瓦と蔦の外観が特徴的な「倉敷アイビースクエア」は倉敷美観地区の観光拠点でもあります。

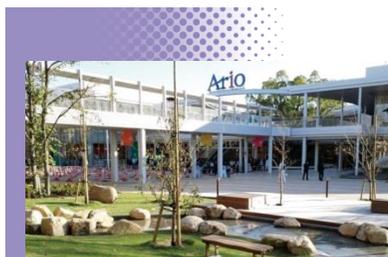
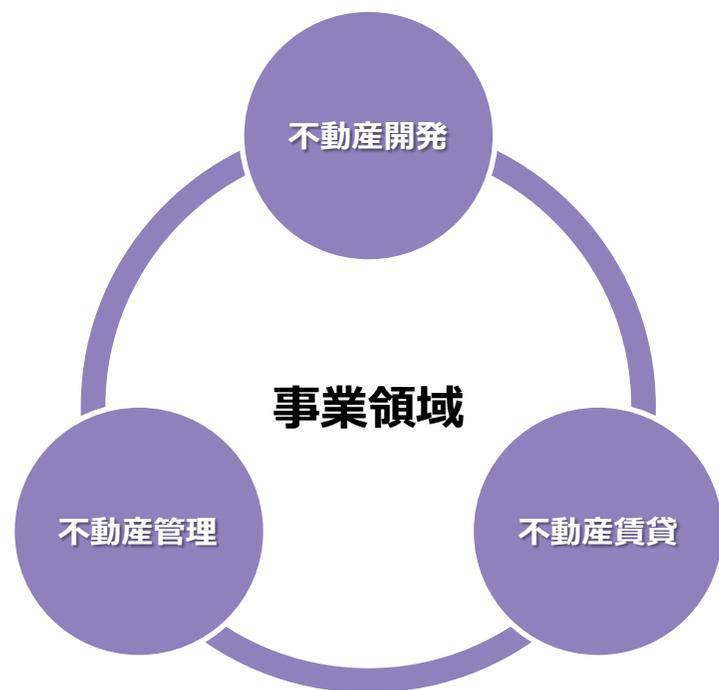


クラボウドライビングスクール

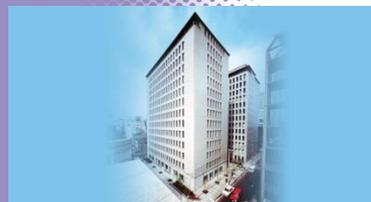
運転の教習を通じて地域の“安全”に貢献している「クラボウドライビングスクール」。

不動産事業

クラボウでは全国に多数の工場および関連施設を有しており、その遊休地を有効活用し、資産の健全な運用や、地域への貢献を視野に入れた活動を推進しているのが不動産事業です。



大型ショッピングモールを中心とする土地の再開発事業に関わり、地域の活性化に貢献。



資産の有効活用を目的にテナントビルとして運用している「クラボウアネックスビル」。



エネルギー問題の解決に大きな期待がかかるメガソーラー施設へ用地を提供。

技術研究所では、自由な発想によるイノベーションと知財戦略との連携により、クラボウグループの未来を支える研究開発に取り組んでいます。



研究開発テーマ

FA・ロボット
(環境メカトロニクス事業)

半導体製造関連
(化成品事業、環境メカトロニクス事業)

遺伝子抽出・解析
(環境メカトロニクス事業)

機能素材
(繊維事業、化成品事業)

分野を越えた交流から差別化技術を生み出す独自体制



クラボウ先進技術センター

2016年に竣工した「クラボウ先進技術センター」は技術研究の中心拠点として、先端の実験装置・評価設備を導入し、挑戦的な技術や商品の開発に取り組んでいます。